

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0874100555		
法人名	鋼製特品株式会社		
事業所名	グループホーム「ひまわり」		
所在地 (電話番号)	茨城県筑西市吉田611 (電話)0296-52-3309		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月31日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(平成19年4月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年5月6日 平成17年4月1日増設		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算	8.5人

(2)建物概要

建物形態	併設		新築
建物構造	木造 造り		
	2階 建ての		2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1350 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 76.2 歳	最低	59 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 杏仁会 大圃病院・医療法人 清風会 豊和麗病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

筑波山の麓にある自然豊かな環境の中の住宅街の中心に設置され住宅街のなかの一つの住宅としての印象が強い。近隣の住宅や住民との距離も非常に近く明るい雰囲気がある。住宅街を離れると農村がひろがり、職員の確保が困難な環境にもかかわらず、職員専用託児所を完備し徒歩通勤圏内に社宅を持つといった整備を行っている。結果職員の定着につながり、これは利用者との馴染みの人間関係を継続させようとする管理者の工夫と受け止められた。居室や共有空間は暖色で統一され明るく暖かな雰囲気がある。居室からは大きな筑波山が一望でき風光明媚と感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアプランや記録についての改善及び食事の内容や運営理念の地域への啓発についての改善点が指摘されていた。その内容は職員管理者間で話し合い取り組みがもたれ改善へと努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員の負担にならないよう管理者間で話し合いがもたれその内容を職員に伝え職員の意見が反映されるよう取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	先月第一回目の推進会議が行われ、家族、行政、地域、職員など参加の下、家族や地域との連携・対応についての話し合いがもたれた。その内容は記事にされ閲覧が可能になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への苦情や意見を聞き入れるために工夫されており、家族からの意見を受け入れる体制がある。しかし家族からの意見や苦情を多数収集する状況にまで至らず今後の努力が期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅街の中に設置され、地域との関連性を設立から継続して行っている。その成果として地域の子供たちが自由にホームに出入りしたり、回覧板などを使用し情報を地域に還元したりとホームと地域との連携が保たれるよう工夫されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	真心と笑顔をモットーに理念を立ち上げており地域に根ざしたホーム独自のケア方針として啓発されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は迷ったときにホーム独自の理念を振り返りケアを提供するよう管理者から指導を受け実施している。また理念に応じた問題点など職員間で話し合いを持つようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催のお祭りや広報誌を配布することで地域との連携を保つよう工夫されている。また託児所の設置などから子供を通しての地域へのつながりも非常に強い。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点について職員間で話し合い改善に向けて取り組んでいる。自己評価は職員の意見が反映されるよう工夫されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域、家族、行政、職員参加のもと行われ、2回目の議題として評価の報告や地域との連携について話し合いが出来るよう計画されている。		

茨城県 グループホームひまわり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議などの他に行政に直接出向き相談や報告を密に行いサービスの向上に取り組んでいる。今後、消防や町内会との連携がとれるよう計画がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の変化や病状については、家族に電話連絡で早めに報告できるようにしている。また日頃の取り組みなどについては、便りなどを送付し家族に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に対し家族の意見を取り入れるためアンケートなどを送付し積極的に情報の収集に取り組まれている。</p>	○	<p>今後は家族の意見を聞き入れるため、送付や意見箱の設置などホーム独自で工夫され、意見の収集に取り組んで頂きたい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員専用の託児所の完備、社宅の完備など職員を定着させる為の工夫が多く、職員も安心して就業出来る環境が提供されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員に対しての集中研修や職員の外部研修はホームの負担で参加出来るなど職員が学ぶ為の環境の設定を積極的に行い、報告研修会なども行われている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとは ケアマネジャーを通し連絡を取り合い職員間での交流を持つようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を3泊で行いその中で入居希望者に馴染んでもらいスムーズに入居が出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関係を保ち利用者の出来ること出来ないことを把握し個々の利用者にあった関係作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察から利用者の希望や意向を確認し利用者の意思にあったケアの提供に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見を受け入れ、計画書の記録に反映するようにしている。職員の記録への徹底に努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しや修正を職員間で会議を持ち職員の意見が反映出来るように見直しを行っている。その内容を記録し職員がいつでも確認できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームに併設された居宅介護支援事業所、デイサービスなどを利用し、利用者が馴染みの空間で楽しく過ごせるよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応の歯科医との連携や夜間往診可能な医師との連携を持ち夜間でもスタッフが不安にならないよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族と十分な話し合いの上、重度化に対しての関わりについて、同意書を経て確認している。現段階で重度化に対しての受け入れは行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の徹底、接遇についての勉強会などを独自で行い職員に啓発している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重し、利用者個々の時間に合わせたケアが提供されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の摂取状況に応じ食事の提供が行われている。	○	利用者が個々に食事を摂取し職員がその状況を見守る様な環境で食事が提供されている。楽しみの一つとして昼食を大勢で食べ、食事の時間を利用者と共に過ごせるよう取り組んで頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否的な利用者も存在するが入浴は利用者の意思により提供されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設のデイサービスを利用する利用者との関わりや女性の入居者に対しては園芸や洗濯など、個々の役割があり楽しみを持ち生活出来るよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ買い物など日常的に外出の援助が行われ月に1度の割合で全員参加の外出などの企画も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常生活空間に施錠は無く、モニターやセンサーなどを利用し外出傾向のある利用者の安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署管轄の下、年2回の防災訓練が行われている。また消防署の指導の下、救急蘇生法などの訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況や水分の出納の内容は個人で記載され保存されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色で統一された共有空間には、その人の作品や掲示物がある。空調や光の配慮もあり暖かな空間で利用者が生活している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染みの物品や仏壇など個々の生活に合わせた空間が設定され思い思いの生活が送れるよう工夫されている。		